USPTO、WIPO グローバルアサインメント試行プログラムへの参画を公表

2026 年 9 月 22 日
JETRO NY 知的財産部
角張、赤木

USPTO は、9 月 22 日付のプレスリリース[1]で、WIPO によるグローバルアサインメントに関する試行プログラム（Global IP Assignment Platform: GIPAP 試行プログラム[2]）に参画する旨を公表した。

GIPAP は、特許権や商標権などの知的財産権の移転登録手続に関して、異なる法域におけるユーザーの同行政手続負担を軽減することを目的に、各法域における迅速かつ簡易な登録手続を可能とする統一プラットフォームとして WIPO により開発が進められている。
本試行プログラムについては、これまでに、各知的財産庁における法制面やシステム面でのフィージビリティ調査が行われ、本年 5 月、WIPO により各庁に対して同試行プログラムへの参画が呼びかけられていた。

USPTO では、今般の試行プログラムへの参画に先立ち、上述の調査結果や GIPAP プロトタイプについて分析等を行うため、法律部門、情報システム部門、国際部門にまたがる分野横断的な検討チーム「tiger team」の設置が公表されていた[3]。
スクワイヤーズ USPTO 長官は、知的財産権の移転登録手続の簡素化・合理化は各知的財産庁に対するユーザーの長年の要望事項であるとした上で、GIPAP がその要望に応えるものとなるか本試行プログラムを通じて精査することになると説明している。また、同長官は、本試行プログラムへの参画を通じて、米国ユーザーはもちろん、国際的な知的財産ユーザーを支える合理的・効率的な権利移転登録手続の早期実現に寄与することになると期待を寄せている。

本試行プログラムは、本年秋に開始され、2027 年にわたって実施される予定である。

（以上）

[1] USPTO's 'tiger team' joins WIPO's Global IP Assignment Platform pilot program
[2] GIPAP - Global IP Assignment Platform
[3] USPTO champions global assignment initiative and PCT modernization